

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第2回 所沢市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	平成31年1月18日(金)午後6時から午後7時40分まで
開 催 場 所	市役所高層棟3階 301会議室
出 席 者 の 氏 名	岡山 健太郎、盛口 誠司、伊藤 能子、梅本 晶絵、三上 誠 星野 泉、萩本 眞一郎、藤田 由紀子
欠 席 者 の 氏 名	森田 奈緒、廣川 隆通
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 「みんなで考える市の仕事事業」について (2) 「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果について (3) 住民投票条例のあり方について (4) その他
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 資料1 平成30年度 みんなで考える市の仕事事業報告 (3) 資料2 平成30年度版 所沢市市民意識調査報告書 (4) 資料3 平成30年度 市民意識調査 自由意見 キーワード分析 (5) 資料4 住民投票条例のあり方について (6) 資料5 住民投票条例の制定状況 (7) 資料6 事例「兵庫県篠山市での住民投票」 (8) 資料7 明治大学での住民参加に関する講座(7/23) (9) 追加資料 平成27年度以降に実施された住民投票の実施事例
担 当 部 課 名	経営企画部経営企画課 電話 04(2998)9027 経営企画部長 平田 仁 経営企画部次長 林 誠 経営企画課 課長 市川 勝也 主 幹 吉川 泰央 副主幹 草薨 秀夫 主 査 河西 秀樹 主 任 都築 岳男 主 任 木村 啓子 主 任 高野 大樹

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>開会后、星野委員長の進行により議事が進められた。</p> <p>（１）「みんなで考える市の仕事事業」について 事務局から 10 月 20 日に実施した「みんなで考える市の仕事事業」について、説明を行った。</p>
委員	<p>所沢市茶業協会への具体的な支援は決まりそうか。</p>
事務局	<p>茶業協会はフランスへの販路開拓のために活動しており、市職員も渡航するなど支援している。</p>
委員	<p>狭山茶というブランドは所沢市だけのものではないので、広域で展開してもいいのでは。</p>
事務局	<p>傍聴者が議論の際に意見を述べる機会はないが、今回から、終了後のアンケート内に事業の意見記入欄を設けた。傍聴者からもたくさんの意見をもらえた。テーマの選定も良かった。</p>
委員	<p>当日、グループの進行係をした。市民委員は皆さん熱心で関心が高い。今回は初めて専門外の分野だったが、私のグループの方は、事前に現状の課題などを整理していた。議題のテーマがホームページのグループでは、実際にホームページを作ってきた方もいた。市の事業に対して関心を持っていることがわかり、市民参加としてとてもいい取り組みだったと思う。</p>
委員	<p>年齢や職業別の内訳などは。</p>
事務局	<p>市内在住の 18 歳以上 75 歳以下の男女 3,000 人を無作為抽出し、募集を送付したところ、若い方から高齢の方まで平均して応募があった。</p>
副委員長	<p>マーケット開拓先がなぜフランスかというと、フォール大佐が航空技術の指導のためフランス航空団の団長として来日し、今年で 100 年になる。航空発祥の地と、お茶をかけたことがテーマとして非常に良かったと思う。</p>
委員長	<p>テーマ選定が大事である。若い方にも参加してもらえて良かった。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>（２）「平成３０年度所沢市市民意識調査」の結果について事務局から「平成３０年度所沢市市民意識調査」の結果について、説明を行った。</p> <p>所沢市市民意識調査報告書中の市民要望、市民満足について、道路と交通の要望率は高いが、満足率が低いことについて、市はどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>道路や交通は生活に密着した施策のため順位に現れやすい。市としても重点的に取り組んでいきたいと考えている。また、昔から市街地周辺の渋滞が課題であり、道路整備を進める前に人口が増えてしまったことが要因として考えられる。現在は、市街地を避けて通行できるような道路網整備を進めているところだ。</p>
委員	<p>市民意識調査の自由意見を全部読んだ。エアコンに関連する意見が突出している。今は、市民がエアコン問題について注目しているが、この問題が終わったあと市民の関心も変わってくるだろうから、市のコンセプトを伝達するいい時期である。</p>
委員長	<p>自由意見の方が要望の強さがわかる。要望度で丸を付けるだけでは要望の強さはわからない。自由意見がこれだけあるので、自由意見の分析にひとひねりあるといい。</p>
副委員長	<p>平成２９年度と平成３０年度とでは、要望度と満足度の出方が違うのはなぜか。</p>
事務局	<p>第６次所沢市総合計画の指標として活用するため、要望度と満足度を何う形式を変えた。質問の仕方を変更している過渡期にあるため、比較ができないデータとなっている。</p>
副委員長	<p>２年、３年この質問形式を続けることで、本当の実態がわかると思うが、今までのデータも上手く変えて活用してほしい。</p>
委員	<p>市民意識調査はきめ細かくデータを取っているが、地域ごとのデータはあるのか。</p>
事務局	<p>報告書をまとめる上で除いてはいるが、地域ごとのデータは把握しており、市の内部では共有している。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>（３）住民投票条例のあり方について 事務局から住民投票条例のあり方について説明を行った。</p>
委員	<p>はっきり言ってわからない。事例や判断基準がたくさんあることがわかった。専門家の先生の意見の中で決めるべきかと思う。</p>
委員	<p>新鮮な感じで拝見した。</p>
副委員長	<p>所沢市で行われた小中学校のエアコン設置の是非を問う住民投票は、投票率３０％台であったが、この投票率で意味があったのかということを知りたい。</p>
委員	<p>テーマの重要度合いは数では決められない。特定の地域の問題の場合、全市的に投票を行うと問題が薄められてしまうこともあるのではないか。</p>
委員	<p>投票に来なかった人の意見は重要なのか。投票を放棄している時点で来なかった人のフォローをする必要はないのではないか。</p>
委員長	<p>住民投票条例に関する条文は、議会関係なしに住民投票ができるかできないかということが主眼となっている。議会での議論では解決されないと市民が判断したときに、最後の手段として実施するものとして、ハードルを高く設定していると理解している。</p>
委員	<p>所沢市自治基本条例の第２１条第３項の「別に条例で定めます」のところをどう考えるか。まずは議会の方で動きがあるかどうか極めて重要である。議会から付託があったときに、こういった検討をしてきたということ的成果として示す必要はあるだろう。論点をまとめ、それぞれの事例について理解を深め、粛々と勉強していく。議会に対して、我々の論点整理を応えられるようにする。</p>
委員	<p>議会が一番大事だと思う。</p>
委員長	<p>議会で住民投票条例について質問が出る回数は、当時に比べて減っているか。</p>
事務局	<p>年に１回あるかないか。</p>
委員長	<p>やめようという動きもないということは、これでいいのではないか。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	規定をなくすにしても、市民が中心になって制定した条文を削除することは、こちらから働きかける動機づけがない。
委員	他の委員から出た意見でサイレントマジョリティーの問題がある。行かないことで態度を表明するという方法もあるが、それをどのように扱うかはなかなか整理ができないところだ。
委員長	政治的決定をする人にお任せできたら自治はいらないが、大丈夫なのかという不信感が制度のベースにある。議会に投げるよりは本委員会で議論していくことが適当ではないか。
委員	所沢市のエアコン問題への素直な感想として、天気予報でもエアコンを上手にを使って、ということを行っているくらいなのに、エアコンがないのはびっくりした。その問題を住民投票にかけるというのは、議員は何をしているのだろうと思った。市民の声だけで住民投票が実施できるように、最後の砦として制度を残しておくことは大事である。
副委員長	所沢市のエアコン問題のときに、市長または議長と、地域との対話はあったのか。会社でもそうだが、従業員と対話しないと、社長が何を考えているのかわからない。面倒かもしれないが、対話をするのが人間として一番大事である。住民と対話し、これは必要だと思ったら住民投票をするべきである。
事務局	当時、市長は地域に出向いて話す機会を多く持っていたと記憶している。住民投票自体は防音校舎への設置を問いかけたものだったが、様々な主張が交錯する中で、暑さ対策としての設置の議論との混同が見られたことは否めない。
委員	もしエアコンの住民投票のときに議会で否決されていた場合、エアコンを付けてほしいと思っている市民は次に方法がない。
委員長	住民投票の制度があることで、市長や議員へのプレッシャーにはなっているはずだ。完全なものではないにしろ、所沢市は開票し、対応していたのは評価できる。多少踊り場的ではあるが制度は効果がある。引き続き、それぞれの事例について理解を深め、粛々と論点整理を行うこととしたい。 (4) その他 特になし。

以上